コミュニケーションセミナー全体に対する質問に対して

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　桑の実工房　所長　桑園英俊

**Ｑ１．導入時に気をつけていること**

◯これまで受けてきた支援の整理をします。

・本人が今迄にどんなコミュニケーション支援を受けてきたのか、まったく受けたことがないのか

　・その支援の結果はどうだったのか。本人の受け入れはどうだったのか

　・これまでこのコミュニケーション支援で使ってきたツールはどんなものか

　・効果があったもの、無かったものはどのツールのなのか

◯本人の強みと興味について把握します。

　・絵･文字･写真･タブレット等、本人が興味を持っているものや可能性のあるもの

　・視覚が優位であるのか、聴覚が優位であるのか

◯実態を把握します。

　知的レベル･言語能力･文字認識等について

**Ｑ２．コミュニケーションにおけるアセスメントの方法やポイントがあれば知りたいです**

　最も必要なアセスメントの分野を明確にすることです。

　例えば、必要なのは言語理解のアセスメントなのか、ツール操作のアセスメントなのか、

　または、コミュニケーション全般のアセスメントなのかを明確にして行なうようにしています。

　初めてアセスメントをする場合は、コミュニケーション全般のアセスメントを取ってから

　導入しようとするコミュニケーション方法に関してのアセスメントを行うと良いと思います。

　合わせて、成育歴、これまでの言語訓練歴などの情報も基礎情報として必須です。

**Ｑ３.　アセスメントツールはどのようなものを使っていますか？**

　桑の実工房独自で製作したものを全員共通で使用しています。

　必要に応じて、心理検査（遠城寺式発達検査･SM社会能力検査）を参考にしています。

　ITツールに関しては、公的なものが少なく、使用ツールに合わせてアセスメントを取っています。

**Ｑ４.　アセスメントの取り方や工夫していることがあったら教えて欲しいです。（どんなアセスメントツールを使用しているのか…など）**

　まず基礎情報（これまでの発達検査結果･言語訓練歴･コミュニケーション支援歴･使用ツール）を

　ベースにすることです。

　本人に定着しなかったツールを再度使うことがないように注意をしています。

　特別支援学校卒業や他事業所からの転所の場合、キーパーソンとなる方がいます。

　その方に本人が現在使っているコミュニケーション手段や方法を確認しています。

　アセスメントツールに関してはＱ３と同様です。

**Ｑ５.　参考書籍があれば教えて下さい**

　「自閉症スペクトラムなど発達障害のある人とのコミュニケーションのための10のコツ」

　　著者：坂井　聡

　「自閉症感覚」

　　著者：テンプルグラディン

　「自閉症児のための絵で見る構造化」

　　著書：佐々木　正美

**Ｑ６.　スケジュールやしたい行動、食べたい物などの選択はありましたが、ご本人の気持ち（イライラ、うるさい）などをきく、知るツールはでてきませんでした。もし、事業所でそのようなツールがあれば、どのように使用しているのか、どのタイミングで使用しているのか教えていただきたいと思います**

　気持ちを聴くツールはロップトークをベースにして使用しています。

　本人の発達段階に応じて、絵カードや文字を利用する場合もあります。

　何かをする前に　したいのか　したくないのか　を聞きます。

　また、不安定になった時などは、その都度確認をしています。

　ツールの使用ができずに、適切なコミュニケーション手段を持っていない方の気持ちの汲み取りが

　難しいところです。それは、今までの行動場面での観察記録を基に、支援者が大まかな予想を立て

　次にどうするのかを提示して取り組んでいます。

**Ｑ７.　スケジュールの変更があったりした時はどういう風に変更されて変更されますか？**

　最も注意している点は、直前でなく、事前に余裕を持って伝えることです。

　直前に伝える場合は、変更を強要する姿勢でなく、同意を得る姿勢で伝えています。

　変更後の選択肢があり、「じゃあどっちをしますか」と問うことができればより良く対応できます。

**Ｑ８.　個別支援で、個別の取り組みの紹介がされていましたが、グループ活動では、どのような点に気を付けているのか教えて欲しいです。**

　グループ活動で何々をするから個別に伝える姿勢でなく、個々の何々がしたいが集まってグループ活動を構成する考え方をとっています。

　グループ活動でも個別の希望を叶う叶わないにかかわらずに、本人に聞くことをしています。

　その点で、要求の差が大きなグループ編成は適切ではないと思います。